

最近、木ノ下くんのこと、木ノ下くんって呼び始めたんだけど、その前は、木ノ下さん、って、ずっと呼んでたんだけど、というのは、木ノ下くんと僕は同い年で、でも全然、同い年だと思えなくて、だから、木ノ下さん。だったんだけど。木ノ下くんのこと、木ノ下くん、って呼ぼうかな、どうしようかな、なんてことを考え始めたのは、去年の12月に白神さんが演出した木ノ下歌舞伎を見た時で、僕は基本的に同い年とか年下をナメちゃうタイプのくそつたれ男子で、それっていうのも、同い年とか年下とかがつくった舞台に危機感とか感じたことなかったのね、大体が、拙いっすなあ、で、済ませちゃうような、つまり僕は高校とかでもいつも先輩に目を付けられるタイプのくそつたれ男子な、わけなのだけれど。去年12月の木ノ下歌舞伎を見た時、初めての感覚があって。それが、そうそう、危機感。だったんだ。とはいえ、演出は白神さんなんだけど、こんなもんを、いつもは演劇なんてやってない白神さんと、わけのわからん木ノ下とかいう同い年（未だ半信半疑）の男が、なんちゃらんんちゃら、云々云々、って、愉快地笑いながらつくったであろう作品を、僕は目の当たりにしたとき、危機感。感じたんだよね。だからそれで、これからは、木ノ下さんのこと、木ノ下くん、って呼んじゃおうかなあ、どうしようかなあ、なんて考えちゃったのね。それでそれでこないだ、彼は僕のこと、たかちゃん、とか呼んできたから、そのとき、あはは、こいつやっぱ同い年なんだ、馴れ馴れしいけれど許してやるよ、僕もあなたのこと、木ノ下くん、なんて呼んじゃうよ。てな具合で、初めて同い年を同い年だと認めたわけです。ここまでが序文です。

そしてそしてこないだ見た三番叟とかの話なんだけど、僕はね、まず、古典だのなんだの、って全くわからんの、だから木ノ下くんにこれから教わりたいと思っているんだけど。だからそういうことで、これからうだうだと書きますよ。まず、なんかオシャレ大学生風な三人が出てきて、うわあ、僕、この男子たちの容姿、苦手だわ、前途多難。とか思っていたの。でも、杉原さんのアナウンスは分かり易くて、大体誰が、翁？だとかは分かりましたんこぶ。杉原さん、アナウンスの才能あるね。それでやっぱ、大学生風の男子とか、マジ、受け付けないわあ、とか思ってたら、ヤツら、突然、大学生風の男子の域を超えた動きをし始めてビビった！そのとき、なんだか、幕で仕切られて窮屈な空間に、或る、風景が広がった気がした、そのパノラマ感が、僕には清々しく見えたよ。ダンスも容姿も、好みではないけれど、でも、少しだけ、儀式を感じた。何かが始まる、予感、がした。舞台や空間の下地ができていくような、そんな感じ。だからこの作品はさ、いつも木ノ下歌舞伎の上演前、開場中にやったら？

二部では、なんか女の人が出てきたよ。まるで、野毛のストリップ劇場から出てきちゃったみたい。だから、そんな妄想していたら怖くなったよね。なんか脱いだりニヤけたりするし。晒し者に自らなっていく感じが。すごくコンセプチュアルな雰囲気を感じたので、今度、色々、木ノ下くんに聞いてみよう、そうしよう。

はい、ではこの辺で。また、見よう。木ノ下歌舞伎。